

施策評価シート

施策等名称	図書館の充実	体系番号	0201020102
		主管課	生涯学習課

1 施策基本情報

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育の重要性は高まっている。 ・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進するとともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。 ・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	全ての人の学ぶ意欲に応えられるよう、人をつなぎ育てるパートナーシップによる事業のほか、公民館活動や読書活動、縄文プロジェクトによるまちづくり事業を推進するとともに、社会教育施設等関係機関の連携により総合的な生涯学習を推進する。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
				142831	156,000
①	入館者数	人	129,662	142831	156,000
②	読書ボランティアグループ等への支援団体数	団体数(団体)	4	7	10
③	住民一人当たりの図書館費	図書館費/人口(円) 図書館資料費。日本図書館協会資料・5万人規模を参考に算出	143.00	170.00	200.00

施策の柱1	名称	図書館機能の充実	主管課	生涯学習課		
	詳細	市民に平等に開かれ、市民一人ひとりの資質の向上に寄与することで、地域社会の豊かさ、活性化、住みやすさ、幸せにつながる図書館運営を目指す。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1	図書館あり方検討委員会(仮称)立ち上げ	検討委員会の立ち上げ(目標年度)	なし 2023に立ち上げ 2023年度	1 図書館運営事業 2 図書館施設管理事業	実施 実施
	2	入館者数	人	129,662 142831.00 156000.00	3 図書館ネットワーク管理事業 4	実施
	3				5 6	
	基本政策間連携 第3次子ども読書活動推進事業					

施策の体系	名称	読書活動の楽しさをつなげる活動	主管課	生涯学習課		
	詳細	市民が持っている知識や技術を伝えることができる場の提供のほか、市民の好奇心を刺激し、創造性、創造力の育成を図る。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1	入館者数	人	129,662 142,831 156,000	1 図書館レファレンス事業(図書館運営事業の一) 2 読書推進事業	実施 実施
	2				3 4	
	3				5 6	
	基本政策間連携 第3次子ども読書活動推進事業					

施策の柱3	名称	市民や活動グループなどへの支援	主管課	生涯学習課		
	詳細	子ども読書活動応援センター、読書の森 読りーむinちの等と連携し、読書活動グループの支援を行い、市全域へ読書活動の啓発と推進を図る。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1	図書館ボランティアグループ等への支援団体数	団体数(団体)	4.00 7.00 10.00	1 読書推進事業 2 子ども読書活動応援センター連携事業	実施 実施
	2				3 読書の森 読りーむinちの活動支援事業 4	実施
	3				5 6	
	基本政策間連携					

施策評価シート

施策等名称	図書館の充実	体系番号	0201020102
		主管課	生涯学習課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の柱 4	名称	資料の整備と充実			主管課	生涯学習課	
	詳細	地域の歴史的にも重要な資料をデジタル化することにより、利用できなかった資料が有効活用できるようにするとともに、図書館を利用できない方へのサービスの向上にもつなげる。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	地域資料のデジタル化 冊	0.00	50.00 100.00	1 図書館資料購入事業	実施	
	2	住民一人当たりの図書費(図書費/人口)	143.00	170.00 200.00	2 図書館分室事業	実施	
	3				3 公立大学法人諏訪東京理科大学図書館との連携事業(読書活動推進事業の一部)	実施	
					4		
					5		
	基本政策間連携						
	施策の柱 5	名称				主管課	
詳細							
まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
1					1		
					2		
2					3		
					4		
3					5		
					6		
基本政策間連携							
施策の柱 6	名称				主管課		
	詳細						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1				1		
					2		
	2				3		
					4		
	3				5		
					6		
	基本政策間連携						

施策等名称	図書館の充実	体系番号	0201020102
		主管課	生涯学習課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	入館者数	129,662	131,856	125,407	74,197	92,950	88,069
1		142,831	92.32	87.80	51.95	65.08	61.66
変動要因等	2018年度	2018年度から開館時間を1時間延長したが、2017年度(134,829人)と比べ入館者が増えなかったことから影響はなかったと思われる。目標設定の次年度から図書費が増額し、資料が充実したことによる利用増と考えられる。					
	2019年度	開館時間延長を行ってきたが、午後6時以降の新規入館者が少ない状況。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、3月についてはサービス制限を行ったこともあり、入館者も減少している。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館により、昨年度よりも開館日数が30日減少した。また、コロナ対策として学習コーナーの利用などの滞在を伴うサービスの制限を行っていることから、入館者が大幅に減少している。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症対策として滞在型のサービスに制限を設けながらも開館を継続し、従来通りの開館日数を確保することができた。入館者数も回復しつつある。					
	2022年度	基本的な感染症対策を取りながら感染レベル低下に応じて制限を緩和し、通常通りのサービスができる体制に戻りつつある。システム更改のための休館により前年度と比較して開館日数が10日間減少したため入館者数も減少となった。					
施策	読書ボランティアグループ等への支援団体数	4	4	4	3	3	3
2		7	57.14	57.14	42.86	42.86	42.86
変動要因等	2018年度	おはなしの演じ手を養成する講座を開催したが、ボランティアグループの増には繋がらなかった。					
	2019年度	現状維持の状況で、新たなボランティアグループの活動にはなかなか繋がっていない。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、既存グループの読書ボランティア活動も休止・縮小を余儀なくされており、図書館での新たなボランティアグループの活動は難しかった。					
	2021年度	引き続き既存グループの読書ボランティア活動も休止・縮小を余儀なくされている。このような状況にあっても学ぶ機会を確保するために大人向けの読み聞かせ講座を実施し、活動の支援を実施したがコロナ禍で新たな団体の立ち上げは困難となっている。					
	2022年度	引き続き既存グループの読書ボランティア活動も休止・縮小を余儀なくされている。このような状況にあっても学ぶ機会を確保するために大人向けの読み聞かせ講座を実施し、活動の支援を実施したがコロナ禍で新たな団体の立ち上げは困難となっている。					
施策	住民一人当たりの図書費	143	161	162	174	176	172
3		170	94.71	95.29	102.35	103.53	101.18
変動要因等	2018年度	H29年度に増額となりその後同額を維持している。図書費としては県内19市中16位であるが、人口割りとすると19位となる。					
	2019年度	前年度並みの状況。人口一人当たりの図書費は県内19市中最下位である。こどもの読書活動に力を入れている自治体とは言い難い状況になっている。					
	2020年度	人口一人当たりの図書費は県内19市中16位であったが、新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を活用し、児童書の買替、大活字本の購入等を行うことができた。					
	2021年度	人口一人当たりの図書費は県内19市中12位タイである。計画策定時より増加してきているが、読書パリアフリー法等の社会情勢の変化や、多様なニーズに対応することは難しい。					
	2022年度	人口一人当たりの図書費は本館のみ163円で17位、分室との合計172円でも下位であることに変わりはない。市町村と県による協働電子図書館による新たなサービスの展開に期待し周知を行っている。					
柱1	図書館あり方検討委員会(仮称)立ち上げ	なし	なし	なし	なし	なし	なし
1		2023年度に立ち上げ	-	-	-	-	-
変動要因等	2018年度	図書館協議委員会にも意見を求め、新組織の立ち上げを検討していく					
	2019年度	引き続き検討事項とする。					
	2020年度	引き続き検討事項とする。					
	2021年度	引き続き検討事項とする。					
	2022年度	施設のあり方検討は図書館協議会を中心に進める事ができた。					
柱4	地域資料のデジタル化	0.00	0.00	0	0	0	0
1		50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	旧システム(オフコン)で作成した図書館資料目録を整備した。今後は既にデジタル化されている資料の確認を含め、茅野市でのデジタル化が必要な資料の洗い出しを行う。					
	2019年度	図書館での書籍化されておらずデジタル化が必要な資料の洗い出しを行った。今後は、国・県等で既にデジタル化されている茅野市関連の資料の確認、博物館・公民館が所蔵する資料でデジタル化が必要な資料の洗い出しをしていく必要がある。					
	2020年度	図書館には、書籍化されておらずデジタル化が有効な資料がほとんどない状況。博物館・考古館等のデジタル化が有効な資料の洗い出しをしていく必要がある。					
	2021年度	図書館には、書籍化されておらずデジタル化が有効な資料がほとんどない状況。博物館・考古館等のデジタル化が有効な資料の洗い出しをしていく必要がある。					
	2022年度	図書館には、書籍化されておらずデジタル化が有効な資料がほとんどない状況。博物館・考古館等のデジタル化が有効な資料の洗い出しをしていく必要がある。					

施策等名称	図書館の充実	体系番号	0201020102	
		主管課	生涯学習課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)	2019年 (前年度比)	2020年 (前年度比)	2021年 (前年度比)	2022年 (前年度比)
投資額	事業費(円)	43,179,414	46,829,381	46,574,709	51,636,367	50,475,327
	うち一財(円)	43,099,014	46,702,501	46,494,309	51,636,367	50,475,327
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合に 記載)					
進捗評価		やや遅れている	おおむね順調	やや遅れている	おおむね順調	おおむね順調
総合評価	主な取組内容や成果	計画当初より図書費が150万円増となったことにより、施策1、施策3については成果が見られた。施策2についてはおはなしボランティア養成講座を行ったが、成果には繋がらなかった。	開館時間延長を行ってきたが、午後6時以降の新規入館者が少ない状況のため、費用対効果を勘案し、2020年度から、午後6時以降の開館時間延長をとりやめることとした。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、3月はサービス制限を行った。	新型コロナウイルス感染症対策のため、30日の臨時休館を余儀なくされ、開館後は平日の開館時間30分短縮した。また、ボランティアグループの活動等により実施してきた行事についても、休止していたが、一部を除き感染症対策を行いながら、再開することができた。	新型コロナウイルス感染症対策として、潜在型のサービスに制限を設けながらも開館を継続しウィズコロナでの利用が少しずつ定着してきた。ボランティアグループの活動により実施してきた行事については地域の感染レベルに応じて可能な限り実施し、また活動支援のための講座も行った。	(R4・総括評価共通)ウィズコロナでの利用が定着し、ボランティアグループの活動により実施してきた行事もほぼ実施することができた。ボランティアの学びや情報交換の場として読み聞かせ講座も実施し、活動を継続していくための支援も行った。また、市町村と県による協働電子図書館事業がスタートし広く登録を呼びかけた。
	課題	H30年から開館時間を1時間延長したが、H29年と比較すると入館者は減となった。入館者は予算と連動する部分も大きい。現在の施設・立地条件で来館を促す方法を検討していきたい。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、2020年度については、居場所機能を大幅に制限せざるを得ない。当面、この制限下で工夫をしながら、行えるサービスを考えたい。状況である。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、引き続き、居場所機能を大幅に制限せざるを得ない。当面、この制限下で工夫をしながら、行えるサービスを考えたい。状況である。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、引き続き居場所機能を大幅に制限せざるを得ない。制限下でも行えるサービスを工夫しながら実施するとともに、ウィズコロナ、アフターコロナの館あり方についても検討が必要。	(R4・総括評価共通)基本的な感染症対策を取りながら通常開館し、定例行事への参加者も徐々に増えている。利用者のニーズに応えられるよう職員レベルアップが求められる。電子図書館についてはウィズコロナ時代の新しいサービスとしてより一層の周知が必要である。
改革・改善	改革・改善内容	入館者増を図るため、利用者及び市民にアンケートを取り参考とした。施策2については今後こども読書活動応援センターとも連携し、増を目指したい。	市民アンケートによるニーズの把握、協議会での意見聴取等により、今後の図書館運営についての検討をしていく。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行う中で、可能なサービスを検討、実施する。	昨年度実施できなかった市民アンケートによるニーズの把握、協議会での意見聴取等により、今後の図書館運営についての検討をしていく。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行う中で、可能なサービスを検討、実施する。	市民アンケートによるニーズの把握、協議会での意見聴取等により、今後の図書館運営についての検討をしていく。コロナ禍にあっても可能なサービスを検討、実施する。また、新しく導入するデジタルサービスのPRと利用促進に努める。	市民アンケートの結果を踏まえ図書館協議会において今後の施設のあり方を検討し、公共施設再編計画における方向性を出すことができた。8月にスタートした電子図書館(デジとよ信州)について、登録や使い方がわからないといった声があることから、今後講座等を開催し利用促進に努めたい。
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1	1	1	1
		重点事務事業	1	1	1	1
理由	利用者の要望により開館時間を1時間延長したが特別な効果が見られなかったため、アンケートを取り入館者増に向けた検討を進めたい。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、運営に制限がある中で、実施するサービスを工夫しながら、資料の整備と充実に向けていきたい。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、運営に制限がある中で、実施するサービスを工夫しながら、資料の整備と充実に向けていきたい。	新型コロナウイルスの終息が見通せない中で、持続可能な図書館サービスを実現するための研究が必要。また多様なニーズに対応するための各種資料の充実が求められている。	従来からの図書館サービスを充実させるとともに、持続可能な図書館サービスとして始まった電子図書館の活用を進め、市民の多様なニーズに応えることのできる環境を整えていく。	